

## あ と が き

昨年3月11日の東日本大震災は、忘れることのできない大きな災害でありました。3月11日14時46分、三陸沖を震源とする巨大地震が発生し、その後の大津波、原発事故による放射能汚染と被害が重なりました。多くの方々が犠牲になり、家族も家も財産もなくされ、1年経過した現在でも故郷に帰れない人が数多くおられます。これらの方々に心よりお悔みとお見舞いを申し上げます。

私が予防医学事業中央会（予防医学の全国組織）の事務局長を兼任することになって18年になりますが、その間にこのような大震災に2度遭遇いたしました。忘れもしない1995年（平成7年）1月17日の阪神淡路大震災が他の一つです。この年は予防医学事業中央会の全国技術研究会を兵庫県予防医学協会と共催で、19日から神戸市で開催することになっておりました。全国より250人からの医療技術者が集まる予定でしたが、幸いと言っては申し訳ありませんが、集会は2日後であったため全国の関係者に直接の被害はありませんでした。当時は何回か現地にお伺いしましたので、その時の状況が今でも目に浮かんできます。兵庫県予防医学協会の施設に大きな被害があり、検診・検査に大きな影響がありましたが、役職員全員の懸命な努力により、比較的短期間で復旧され、以前にも増して大きく活躍されておられます。

この度のことで、被災された岩手県予防医学協会、宮城県予防医学協会、福島県保健衛生協会とその地域が、1日も早く復旧復興されるようお祈り申し上げます。

毎年のことですが、厚生労働省は1月1日に人口動態の年間推計を公表しています。これからの日本はどうか、われわれの仕事はどうか、などのことについて考えるために、いつも関心を持ってその数字を眺めています。2011年の推計を見ると、出生数は105万7千人で戦後最小となり、一方、死亡数は126万1千人で戦後最大となり、死亡数と出生数の差は20万4千人と戦後最大の人口減になると推計しています。

厚生労働省は、人口の自然減、少子化、超高齢化の傾向は今後も続くと見通しています。3大死亡原因である悪性新生物、心疾患、脳血管疾患は、例年同様に増加しています。今後のがん対策、生活習慣病対策の重要性を考えて、われわれの活動も一層力を入れて行かねばなりません。

今年も協会年報をお届けする時期になりました。少子化対策としての新生児マス・スクリーニングの新しい報告、少なくなった児童生徒の学校保健対策、働く人の健康管理、国家的にも最重要テーマである各種がん対策などを、多くの先生方に分析執筆をいただきました。ご多忙のところ、本当にありがとうございました。

それぞれの分野における報告書が、今後の健康管理・健康増進に役立つ情報だと確信しております。今後とも、ご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2012月3月

財団法人東京都予防医学協会  
専務理事 山内 邦 昭